

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

作成日:2015年11月6日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-1	<b>教育学研究科の理念</b>		変更の有無
	「子ども理解」		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
A-2	<b>教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)</b>	<b>教育学研究科の目的(Webサイト上)</b>	変更の有無
	教育学研究科は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、その教育のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。こうした3つの「力」を持ち、「子ども理解」を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うとともに、高度な専門性によって指導的な役割を担うことのできる「教育者」(専門的教育者)及び研究者を養成することを目的とする。	本研究科は、乳幼児期、児童期、青年期の教育問題の解決に資する教育と研究、さらに社会貢献に対応できる大学院教育を行うことを目的としています。具体的には、「子ども理解」を基礎に、現代の複雑で困難な教育問題に向き合い、同時に高度な専門性によって指導的な役割を担うことのできる「教育者」(専門的教育者)と研究者の養成を目指します。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	<b>めざす学生像</b>		変更の有無
	高度な専門的知識と理論構築、さらには現実に即した具体的支援ができる人、広い視野に立ち、指導的な立場を担える人。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	<b>学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)</b>		変更の有無
	<b>【博士課程前期課程】</b> ① 教育学の幅広い専門的知識を基に「子ども理解」を深め、現代の多様な教育問題に対して実践的に対応することができる。 ② 建学の精神であるキリスト教主義教育の理念を理解し、教育の基礎となる価値観・思想・理論・歴史ならびに学問的方法を修得して、社会的要請を踏まえた研究・教育活動ができる。 ③ 深い人間理解と鋭敏な人権感覚に基づくコミュニケーション力を身に付け、情熱をもって教育の対象や教育・研究活動にかかわることができる。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	<b>【博士課程後期課程】</b> ① 教育学における専門領域について、高度な専門的知識を実践と結び付け、現代の多様な教育問題の解決に資する教育・研究活動ができる。 ② 建学の精神であるキリスト教主義教育の理念を理解し、使命感とモラルに支えられた高度な専門的技能と、国際的な視野に立った科学的見地から問題を分析し、概念化できる研究能力を身につけている。 ③ 深い人間理解と鋭敏な人権感覚に基づくコミュニケーション力を身に付け、情熱をもって教育の対象や教育・研究活動にかかわり、指導的立場を担うことができる。		



<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年11月6日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-3 教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 再編後の教育学研究科の教育・研究内容の周知	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) 2017年度に再編する教育学研究科の教育・研究内容の周知につとめる。	
目標2	(タイトル) 研究者養成コースの教育研究目標	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) 前期課程「研究者養成コース」では現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し論理的に表現できる教育学・保育学研究者の養成を目的としたコースワークをワークを行い、後期課程への進学につなげる。	
目標3	(タイトル) 奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) 前期課程「高度教育コース」では、奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成を目的としたコースワークを行う。	

A-3. 「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	決定・判断時期	2017年3月
	検証エビデンス	教育学研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	成果指標(学位授与数)を定めて現状を把握の上、教育学研究科委員会において課題を整理している。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり(内容:2017年度の研究科再編の答申に検証結果を反映させることができた。) <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容: ) <input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
	検証エビデンス	学校基本調査の結果、教育学研究科第1次答申、第2次答申
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年11月6日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-4

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
<p><b>【博士課程前期課程】</b>                      博士課程前期課程では、授業科目を幼児教育コース科目、初等・中等教育コース科目、臨床教育コース科目に分け、研究科目として「教育学研究演習」を設けている。各コースの授業科目は「子ども理解」を基礎におき、実践的視野を重視して体系的に編成している。研究科目の「教育学研究演習」以外はすべて選択科目であり、各コースの科目を幅広く履修することを認め、一体的な研究指導を行う。                      必修科目である「教育学研究演習」は、教育学の分野、方法における高度な学術知識の修得と修士論文作成のための研究指導を行う科目であり、学生全員に修士論文の提出を求めている。                      なお、博士課程前期課程を修了するためには、以下の要件をすべて満たす必要がある。                      (1) 2年以上の在学(休学期間は算入しない)                      (2) 必修科目「教育学研究演習」8単位と選択科目 24単位(他コース科目は12単位を上限に選択科目として算入可)の合計32単位以上の修得                      (3) 修士論文審査合格</p> <p><b>【博士課程後期課程】</b>                      博士課程後期課程のカリキュラムは「研究演習」(必修科目)で構成される。                      「研究演習」では、                      入学時に定められた指導教員の下で博士論文の作成を主たる目的とする。                      なお、博士課程後期課程を修了するためには、以下の要件をすべて満たす必要がある。                      (1) 3年以上の在学(休学期間は算入しない)                      (2) 必修科目「研究演習」12単位の修得                      (3) 博士論文審査合格</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	決定・判断時期	2017年3月
	検証エビデンス	教育学研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない	
	検証方法(指標、測定方法など)	成果指標を定めて現状を把握の上、教育学研究科委員会において課題を整理している。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり(内容: )IR調査の結果に検証結果を反映させることができた。 <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容: ) <input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年11月6日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP)	変更の有無
<p>博士課程前期課程 博士課程前期課程においては、教育界や社会の要請に応じて、「子ども理解」を基本理念に、様々な分野において、子どもの幸福(最善の利益)に寄与する指導的立場を担える専門的教育者及び広い視野に立った研究者を養成します。</p> <p>博士課程後期課程 博士課程後期課程では、高度な研究能力と豊かな学識を持った研究者の養成を目的としています。</p> <p>以上の人材養成の目的に沿って、教育学研究科においては、教育界や社会に広く門戸を開き、専門的教育者と研究者を目指す学生を受け入れます。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	決定・判断時期	2017年3月
	検証エビデンス	教育学研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	成果指標(入学者数)を定めて現状を把握の上、大学院問題検討委員会において課題を整理している。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり(内容:2017年度の研究科再編の答申に検証結果を反映させることができた。) <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容: ) <input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
	検証エビデンス	学校基本調査の結果
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年11月6日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
2016年度中に検討し設定予定		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
修学支援	2016年度中に検討し設定予定	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
生活支援	2016年度中に検討し設定予定	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
進路支援	2016年度中に検討し設定予定	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	<p>方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。</p> <p>(下記のことが明らかであることに留意する。)</p> <p>&lt;修学支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留年者及び休・退学者の状況把握と対処</li> <li>・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施</li> <li>・障がい学生に対する修学支援の実施</li> <li>・奨学金等の経済的支援の実施</li> </ul> <p>&lt;生活支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内</li> <li>・各種ハラスメント防止に向けた取り組み</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	決定・判断時期	2017年3月
	検証エビデンス	教育学研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	成果指標(在学者数)を定めて現状を把握の上、教育学研究科委員会において課題を整理。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり(内容:経済的支援を公平に配分するよう、配慮した。) <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容: ) <input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
	検証エビデンス	学校基本調査の結果
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他( )	

&lt;理念、目的、教育研究目標、方針等&gt;設定・確認シート

作成日:2015年11月6日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-7

<b>教員像</b>		変更の有無
2016 年度中に検討。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
無しの場合どのように設定するか？	責任主体・組織	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	設定方法	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	設定見込み時期	2017年3月
<b>教員組織の編制方針</b>		変更の有無
定年退職予定者の後任人事を視野に入れながら、将来構想との関連において、免許・資格課程の教員組織のみではなく、学部全体の教員組織の適切性を検討する。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

<b>A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認</b>		チェック欄
【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	決定・判断時期	2017年3月
	検証エビデンス	教育学研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	現状を把握の上、教育学研究科委員会において課題を整理している。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり(内容: )2017年度の研究科再編の答申に検証結果を反映させることができた。 <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容: ) <input checked="" type="checkbox"/> 計画なし
	検証エビデンス	学校基本調査、教育学研究科 第1次答申、第2次答申
周知・公表方法		<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他( )